

企業支援 ウォッチ

建具の新たなスタイル「立体組子」で新市場開拓！

福岡県中小企業団体中央会は、中小企業が地域の産業資源を活用して、売れる新商品・新サービスの開発・事業化等を行う「地域産業資源活用事業計画」の認定からフォローアップまでの支援を行っています。今回は、「新たな木組み『立体組子』を活用した建具、家具インテリアの開発と販路開拓」の取組みで九州経済産業局より認定を受けた前田建具製作所をご紹介します。

前田建具製作所について

前田建具製作所は、昭和43年12月に先代の代表が大川市で創業した木製建具製造業者です。

同社の特徴は、建設現場でデザイナーと協議しながら現場に適合した建具を臨機応変に製作することができる点です。また、展示会等に積極的に出品しており、多数の受賞実績があります。

このような職人の高い技術を強みとして、これまで、住宅を始め、店舗、病院、公共施設などの建具や造作家具工事を数多く手掛けてきました。

大川市の木工業について

今回活用した地域資源「大川木工製品」の産地である大川市は、言わずと知れた木工業の盛んな産地です。その歴史は室町時代まで遡り460年にもなると言われており、明治10年頃には大川独特のデザイン・機能を有した「榎津箆筥」が誕生し、「家具産地の町大川」として全国に名を知られるようになりました。

その後も、大川鉄道の敷設、昭和24年に国の「重要木工集団産地」の指定を受けるなど、住宅ラッシュの追い風にも乗って日本一の家具産地として生産を拡大してきました。

しかし近年においては、人口減少、核家族化、住宅の狭小化や洋風化によって、木製家具の生産は減少しています。平成8年には1,000億円を超えていた出荷額が、今では300億円を割り込む状況にまで減少しました。

産地では、このような厳しい現状を打破すべく、地域をあげて発展の方策を模索しており、匠の技をもった職人たちと、新しい感性を有する木工業者や塗装業者、建具事業者が一丸となって新たな取り組みに挑戦しています。

認定挑戦のきっかけ

今回認定を取得した「立体組子」も、匠の技と高精度の製造機械を掛け合わせた新しい取り組みを模索する中で、着想に至りました。

「立体組子」を「大川匠の世界コレクション in TOKYO」(図1)に出品した際、メディアや来場者からの反応に手応えを感じました。

「地域産業資源活用事業計画」に挑戦することで、事業計画のブラッシュアップに関するアドバイスや、認定後の販路開拓支援を受けることができます。また、国の認定を受けることで対外的なPRにつながると考え、認定に挑戦することとなりました。

「立体組子」の特徴

従来の組子が平面的(図2)であるのに対し、「立体組子」は、高精度で切り出した木を立体的に組むことで3次元的な広がり表現できます(図3)。見る角度や光の加減によって、見え方が異なり、空間的な広がり醸し出されることで、非日常的な空間演出が可能となります。

今後について

認定後は、事業計画のフォローアップ及び、販路開拓のハンズオン支援を受けることで、「立体組子」事業を軌道にのせ、販路を拡大していく予定です。



図2. 従来の組子

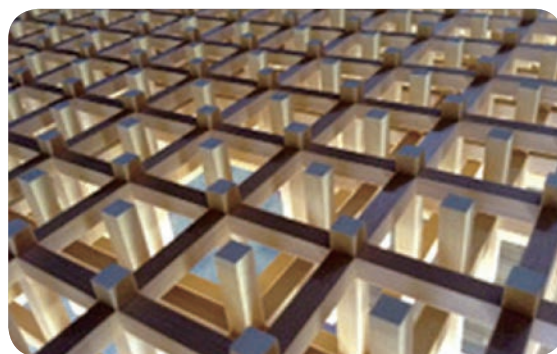


図3. 立体組子



図1. 大川匠の世界コレクションのチラシに掲載された「立体組子」



認定式典にて前田代表(左)と杉本チーフアドバイザー(右)

お問い合わせ先

企業名：前田建具製作所
所在地：福岡県大川市大字向島2014-6
TEL：0944-87-5231
FAX：0944-87-7193
URL：<http://maeda-tategu.com/>